

平成28年4月日本遺産認定



日本遺産

会津三十三観音札所

石田明夫

福島県大沼郡会津美里町雀林 法用寺



会津三十三観音札所巡礼

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
会津五薬師と霊場	地域の三十三観音	食事と宿	会津三十三観音位置図	会津三十三観音札所	観音像の違い	札所巡礼の始まり	会津仏教の始まり	参拝の作法と楽しみ方	注意すべき心得
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	18	5	4	4	3	3	2



左下り観音
京都の清水寺や会津柳津の虚空蔵堂を思わせる懸け造りの堂

会津地方では、若い既婚男性の飯豊山講、中年男性の出羽三山講、若い既婚女性の会津三十三観音講という歩いて巡る「講中」がありました。一緒に行った仲間には、強い結び付きとなり生涯続きました。その他に、熊野講、古峰ヶ原講、地蔵講、山ノ神講などもありました。

三十三観音札所と御詠歌

一番	二番	三番	四番	五番	六番	七番	八番	九番	十番	十一番	十二番	十三番	十四番	十五番	十六番	十七番	十八番	十九番	二十番	二十一番	二十二番	二十三番	二十四番	二十五番	二十六番	二十七番	二十八番	番外一	番外二	番外三						
大木	松野	綾金	高吉	熱塩	勝	熊倉	竹屋	遠田	勝常	東原	田村山	館	下荒井	高瀬	平沢	中ノ明	滝沢	石塚	御山	左下り	相川	高倉	関山	領家	富岡	大岩	高田	浮身	雀林	中田	塔寺	青津	御池	柳津	鳥追	
6	6	6	7	7	7	7	8	8	8	9	9	10	10	10	10	11	11	12	12	12	12	13	13	13	14	14	14	15	15	15	16	16	16	17	17	17

会津五薬師と霊場

五薬師

中央薬師	東の薬師	西の薬師	勝常	本寺	宇内	西山
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・

霊場

南の薬師	北の薬師	会津大仏	浄土	新宮	野寺	北山	上三宮	冬木沢	熊野神社	雨屋
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・





1 注意すべき心得

一、札所がある場所の現状

江戸時代、会津では、独身の男性は飯豊山、既婚の男性は湯殿山、既婚の婦人は三十三観音を一週間から二週間かけて参拝する「講中」がありました。

会津三十三観音は、盆地の平坦地だけに位置しているとは限らず、左下り(さくだり)観音や大岩(おおいわ)観音は、山中にあります。無住や人家から離れている観音堂もあり、車でいけない所、駐車場が無い所、道が狭い所、トイレを完備していないところもあります。

注意事項・厳守

- 1 服装は長袖、ズボンが基本
蚊や蜂、毛虫の予防と日焼け予防のため肌を出さないようにし、長袖シャツ、長ズボンが最適です。
- 2 クマ、イノシシなどの動物に注意
クマやイノシシとの遭遇もあるので山間部では、クマ鈴を持参しましょう。
- 3 マムシなどの蛇に注意
蛇もいるので足元に注意し、素足は隠しましょう。もしもの時は救急車を呼び病院に行きましょう。
- 4 山菜とキノコ
山菜やキノコも楽しみですが、食べられないものもあるので、判別は自分で判断せず専門家に鑑定してもらいましょう。
- 5 千社札(せんしゃふだ)落書き禁止
参拝記念に貼る千社札と落書きは禁止です。塔寺、雀林、勝、左下りなどの堂は指定文化財です。

6 清水を飲む時

山間部には、清水もありますが、ピロリ菌がいるので注意して飲んでください。御朱印は、無住の寺もあり、必ずもらえるとは限りません。堂の前に置いてあるものもあります。

二、交通事情と車の選択

1 とにかく道が狭い

会津盆地の農村部や山麓部、山間部に堂があり、道は狭く、会津若松市門田町の「二十番、御山」は大型車、中型車はもちろん、マイクローバスや背の高い車は柿の枝によって、通行は無理のため、途中から徒歩となります。

2 マイクローバスでも無理な所あり

「御山」以外も、道が狭くまいため、大型バスでの移動は無理で、マイクローバスか、十四人乗りの中型が最適です。

3 坂道も多い

「二十一番 左下り」と「二十七番 大岩」は、途中まで行くことが可能です。が、急な坂道のため4WD車が最適です。

4 案内は専門家同行で

会津三十三観音は、ただ回ればよいというものではありません。御詠歌(ごえいか)や創建のいわれ、自然や食の楽しみもありますので、案内できる専門家同行で回りましょう。

■会津を知る

- 会津地方の大きさは、約五千六百八十八平方キロメートル。愛知県や、千葉県、和歌山県、石川県、山梨県より広く、全国二十六位愛媛県より広いのです。
- 会津地方の人口は、約二十七万四千人です。
- 人口密度は、一平方キロメートル当たり、全国最下位の北海道が、約六八・六人。会津は、約五〇・七人。北海道より人が住んでいないところです。
- 猪苗代や会津若松市湊町の地域は、青森県の青森や弘前と同じ気候。裏磐梯は、北海道の札幌や旭川と同じ気候なのです。



■堂の場所には意味がある

毎年、六月の夏至の日には、会津若松市高野町上沼・木流付近から東を見ると、磐梯山の山頂から日の出となります。その場所には、真言宗の木流馬頭観音堂が位置しています。それは、夏至に日の出をする場所にわざわざ堂を建てているのです。他にも、磐梯町の慧日寺や、中田観音からも夏至の日に磐梯山山頂から日の出が見られます。早起きして見てください。

御利益間違いないし。
大岩観音や左下り観音は大きな霊験のある岩があります。パワーをもらいましょう。

2 参拝の作法と楽しみ方

一、参拝の作法

- 1、身なりを整えましょう。
服装が整っていないと迷いがあります。それでは、願いもかたまりません。
- 2、手を洗い、口を注ぎましょう
水が無いときは、できるだけ口の中もきれいにしましょう。
飲酒を伴った参拝は、御利益がありません。
- 3、お賽銭を入れます。
御縁(円)があるようにと五円や始終(四十)五円があるようにと入れます。十円は縁が遠(十)くなるので入れません。
- 4、ワニ口があれば、たたきましましょう。
- 5、手を合わせ合掌しましょう。
- 6、頭を下げて礼をしましょう
- 7、日頃の感謝の気持ちを唱えましょう。

二、札所巡礼の楽しみ方

境内には、古いものでは、指定文化財となっているものがあります。指定されているものは、看板がありますので説明書を読みましょう。

また、自然豊かな境内には、大木や古木、池、築山があり植物や四季の花もあります。さらに、石仏や石碑、有名な人の墓もありますので、ゆっくりと堪能してください。

モリアオガエル、虫や、蝶、トンボの生物、鯉などの魚もいますので、自然観察には良い場所となります。

3 会津仏教の始まり

日本に仏教が伝来したのは、『元興寺(がんこうじ)縁起』などでは宣化(せんか)三年(五三八年)とされていますが、会津に仏教が伝来したのは、『会津旧事雑考』によると欽明(きんめい)元年(五四〇年)に中国、梁国の青巖(せいがん)が、会津に来て高寺山と笹山(会津若松市湊町)に一字を営み仏教を布教したという。しかし、確証はありません。

奈良の法相(ほっそう)宗の僧徳一(とくいつ)は、藤原仲麻呂(恵美押勝)の四男か六男ともいわれ、東大寺では師の修円から学び「東大寺徳一(得一)」が、会津に仏教を根付かせました。徳一が会津で最初に開いた寺は、慧日寺の草庵(くさあん)勝常寺です。奈良時代、平地の寺院と山岳寺院の関係は、興福寺が平地寺院で山岳寺院が室生寺、法隆寺が平地寺院で山岳寺院が福貴山寺のようにセット関係になっていました。

勝常寺が平地寺院で、奈良の薬師寺(法相宗)と同じ伽藍(がらん)配置で、三重の塔が東西にありました。

慧日寺(えにちじ)が、その後整備された山岳寺院で、奈良では室生寺や福貴山寺、比蘇寺にあたります。

■西国三十三所・三十三番華嚴寺と高田福生寺

西国三十三所、満願となる三十三番、美濃国谷汲山華嚴寺と会津美里町の富岡は深い関係があります。

平安時代初期に会津郡主だった大口大領(おおぐちだいらりょう・大領とは郡主のこと)は、京都で仏像を作ってもらい帰る時、美濃国の谷汲で動かなくなったといひます。そして、延暦十七年(七九八)に華嚴寺を建てたとされています。

今でも檀徒総代は三〇代目となる「大口和彦」さんで、山門前の一番良い所で蕎麦屋「富岡屋」をしています。



4 札所巡礼の始まり

一、西国三十三所の始まり

全国では、西国三十三所巡礼、四国八十八所巡礼が良く知られています。西国三十三所巡礼は、永延(えいえん)二年(九八八)に花山天皇が熊野権現のお告げにより、仏眼上人を先達として三十三所の観音霊場巡ったのが始まりとされています。紀州国那智山青岸渡寺(せいがんじ)が一番で、美濃国谷汲山華嚴寺(たにくみざんげごんじ)が三十三番となっています。四国八十八所巡礼は、空海ゆかりの地を巡礼するもので江戸時代初めに盛んとなりますが、今のようには八十八所を回るようになるのは、寛永十五年(一六三八年)からとなります。

二、会津三十三所の始まり

「郷村三十三番巡礼観音」と呼ばれ、『会津鑑』に「三十二番」青津観音は、慶長十六年(一六一一)の慶長会津大地震で倒壊し、青木から移したため青津観音になったとあり、元は青木観音であり、御詠歌中に「青木」と詠われています。そのため一六一〇年前後の蒲生秀行・忠郷時代には成立していた可能性がありま

す。寛永二十年(一六四三)に保科正之(ほしなまさゆき)が会津入ると盛んにおこなわれていたようです。寛文五年(一六六五)の『会津寺院縁起』法用寺の項に「会津三十三番巡礼」として御詠歌が載っています。寛文六年(一六六六)九月二十一日『家世実紀』には、やはり過ぎたので領内巡礼の停止を命じるほど、盛んに巡礼されていきました。

5 観音像の違い

観世音には、「観音さま」といわれ、阿弥陀如来の化身とされ、この世を救う菩薩とされています。

観音には、六観音、七観音、三十三観音とこのがあります。会津の三十三観音は、三十三種類の観音を巡礼するものではなく、三十三か所の観音堂を参拝するものです。

会津三十三観音の種類は六観音

聖(しょう)観音 慈悲があり餓鬼を救う観音で通常はこの観音をさします。
千手(せんじゆ)観音 千の手、千の眼で慈悲と地獄から救う観音。
十一面観音 十一の顔を持つ観音で、正面が慈悲慈愛、左は怒り、右は牙(きば)、後ろは大笑いを表します。
如意輪(にょいりん)観音 すべての生き物を救い延命させる観音で、悪を去らせ、金銀を生む観音でもあり、片膝を立てていることから当時の安産とされた座産の姿に似ていたので安産信仰があります。
准胝(じゆんてい)観音 災難除け、延命、持病を治す観音で、人の道を救う。
馬頭(ばとう)観音 動物を救う観音で、馬のように悪を打ち伏せる観音で、頭に馬を乗せています。

七観音の場合

七観音は、錫杖や蓮華を持つ不空縹素(ふくうけんさく)観音を加えます。子安観音は、子ども抱く観音で、マリア像が変化した観音ともされています。

